

しんあい

発行日：平成24年6月1日

- 特別養護老人ホーム裕生園
 - ケアハウス シヤトル
 - グループホーム たちばな
 - きんかん 小規模多機能ホーム
- 〒880-2221
宮崎県宮崎市高岡町内山 2407-3
TEL.0985-82-0196(代)
メールアドレス
sin-ai-kai@sin-ai-kai.jp

発行：社会福祉法人 信愛会 ホームページ <http://www.sin-ai-kai.jp>

第
25号



宮崎市高岡町にある月知梅公園にて(H24年2月)



東日本大震災からあつと言つ間に一年が過ぎ、新緑の美しい五月になり、田植えの季節になりました。原子力発電による全ての発電が止まろうとしている日に、東京スカイツリーの光と、隅田川に放流した十万人のホテルに見立てたLEDの天の川のプロジェクトで、美しい光の競演が行われ、一夜限り(?)の光の祭典を見学した人は、電気の有難さや、イルミネーションの美しさを感じた事でしょう。

今、全世界が激動の時代に向かい、今後我が国でも電力問題・食料問題・少子高齢化の問題と、避けて通れない問題が山積しており、各企業・各個人が自立して行く事を考えなければならぬと思います。

二十四年度の医療・介護保険の報酬改定があり、在宅優先の政策が採られ、介護保険料も全国平均五千円に迫るほどの負担増となりましたが、施設ケアと違い、在宅ケアは高コスト・非効率的なサービスが推し進められています。県内では特養の入居定員を超える住宅型有料老人ホームができ、ホテルコスト・食費の全額負担が当たり前になりつつあります。

我が信愛会では、低所得者へ向けての減免措置を介護保険導入の最初から行っておりますが、県内でもまだ二十五ヶ所しか取り入れていない事にびっくりしております。今後、社会福祉法人はもっと減免制度を取り入れる事と思います。介護報酬が下がる一方で、介護困難な利用者が多くなり、厳しい時代に向かっていく現状です。この厳しい時を職員一同努力して行こうと思います。



しんあい

社会福祉法人信愛会
副理事長
辰元 圭子

歌手の美月優さんが裕生園を訪問

みつき ゆう

平成二十四年一月二十五日、演歌歌手の美月優さんが裕生園に來園し、その活気に満ちたパフォーマンスで利用者の皆さんを元気づけてくれました。実は美月優さんのお父さんは地元高岡町出身。この日は、美月さんの祖母のヒデさんもショートステイで裕生園を利用されていました。最前列に座っているおばあちゃんの前で、美月さんはプロの歌唱力で7曲を熱唱。ヒデさんは感激の余り涙ぐみ、他の利用者さん達も、そして職員も元気をもらいました。



裕生園ホールで熱唱する歌手の美月優さん



利用者一人ひとりに声をかけて元気づけてくれました

入田マツエさん、百歳を迎えられる

入居者の入田マツエさんが、平成二十三年十一月十二日、百歳の誕生日を迎えられました。九月十五日に裕生園ホールで開催された敬老会で、内閣総理大臣から授与されたお祝い状と記念品が披露されました。本当におめでとうございます。



敬老会で辰元副理事長からお祝い状を手渡される入田マツエさん

ホームページが全面リニューアル

これまで特養裕生園のホームページがありました。この度、全面リニューアルするとともに、裕生園の母体である社会福祉法人信愛会のホームページも新たに開設しました。裕生園以外の施設・事業所のページも順次オープンして行く予定です。今現在の信愛会の様子がよくわかるよう、内容の充実を図って行きたいと思っています。



ホームページアドレスは
<http://www.sin-ai-kai.jp>

裕生園・シャトル・長寿園が福祉避難所に指定

平成二十四年三月二十七日付で、特養裕生園・ケアハウスシャトル・養護老人ホーム長寿園の3施設が宮崎市と福祉避難所指定の協定を交わしました。福祉避難所とは、昨年の東日本大震災のような大規模災害が発生した際に、逸早く開設される一次避難所に次いで開設される二次的な避難所で、介護の必要な高齢者の方々や障害のある方など、福祉的な配慮の必要な方達が移送されて来る避難所となる施設です。もちろん、一次的な避難所としての役割を果たすことも私達社会福祉法人の務めであることは言うまでもありません。

人事を尽くして...



裕生園
園長 川越 淳

昨年三月十一日の東日本大震災から一年以上が経過しました。多くの人達の懸命の努力にも関わらず、復興・復旧は思うようには行っていないように見えます。一つには、福島第一原発の放射能事故のため、容易には人が近づくことのできない領域が残っていること、また一つには、被害の大部分をもたらしたものが津波だったため、復興のための都市計画に盛り込むべき要素が多岐にわたり、利害関係の調整もあり、簡単にはいかないことは想像できます。

私達の業界でも、高齢者福祉施設のための防災マニュアル作りを進めています。宮崎県は日向灘沖地震、更には東海・東南海・南海地震と連動した4連動地震の発生が予想されています。マニュアルをゼロから策定することは途方もない作業になってしまつたため、地震対策・津波対策の先進県のマニュアル等をベースにして、各施設が自施設の現状をチェックし対策を講じられるようなものを目指しています。そのチェック項目を実際に自分の施設に当てはめてみると、いかに準備不足か、ということを感じさせられると同時に、万が一、昨年の東日本大震災のような規模の地震・津波が発生したら、私達が策定しようとしているマニュアル類はひとたまりもない、という徒労感も感じざるを得ません。だからと言って、しかし、何もしないわけには行きません。人間は自然の脅威に完全に打ち克つことはできないでしょうが、これまでも粘り強く、しっかりと生き延びて来ました。完全な「防災」ではなく、「減災」を目指すべきでしょう。減災というのであれば、まだまだ私たちがやれる余地はあります。「人事を尽くして天命を待つ」古人が言い伝えて来た言葉ですが、智慧のある言葉だと思えます。私達としては、人事を尽くして行きましよう。

平成二十四年度に向けて



裕生園
生活相談員 小田 剛士

早いもので裕生園に入職して5年の月日が立ちました。入職した頃は利用者の方と会話もあまり出来ず、オムツ介助・入浴介助・食事介助に追われ、他の職員に置いていかれないようにひたすら一生懸命仕事に取り組んでいた事を思い出します。2年間介護度の重いユニットで技術を学び、その後介護度の軽いユニットに移りました。そこでは会話(コミュニケーション)の大切さを教わりました。コミュニケーションの苦手な私は、最初どのように利用者の方と接して良いのか分からず怒らせてしまう事もありました。今ではそういう経験は自分の糧となつています。単に3大介助が出来ただけではダメで、コミュニケーションを図り相手との信頼関係を築いていく事も大事なだと教えられました。名前を覚えられ少しずつ話しかけられるようになり、ある利用者の方とは冗談を言えるまで信頼関係を築く事が出来ました。それそれ介護度の違うユニットで色々学びはせて頂きました。これからのこの思い出と経験を大切にして利用者の方と接して行こうと思えます。

また、入職した頃と比べて裕生園を取り巻く環境も大きく変化しました。高岡町に裕生園以外の高齢者施設は少なかったのですが、今では高岡町内や近辺に高齢者施設が次々と建設されるようになりました。住宅を改良した建物や裕生園と比べると規模こそ小さいけれど、オシャレで綺麗な建物があるところに建てられています。これから利用する方達にとっては今まで以上に施設の選択肢が増え大変良い事なのですが、裕生園としては今まで以上に他の施設と競争しなければならぬ時代を迎えまじつた。それは施設にとつて無視する事の出来ない状況となりつつあります。

30年以上歴史のある施設ですが、この新しい波に呑み込まれないようにする為にも、守るべき所は大切に、直すべき所は改善して、皆様から選んで頂けるような施設作りを目指していきたいと思えます。相談員になつても日も浅くまだまだ未熟ですが、初心を忘れずこれから自己研鑽に努め、より良いサービスが提供できるよう他の職種と連携を取りながら協力し合つて裕生園を盛り上げて行こうと思えます。

その人らしさを支えるために



たかおか居宅介護支援事業所
ケアマネージャー 小山 史子

たかおか居宅に勤務させていただく様になり、今年で2年になります。

私と福祉との出会いは、大学受験に失敗したことから始まりました。元々高校時代理系で、医療関係に進学したかったのですが、福祉関係に進学する事となり、そこで養護施設のボランティアをしたのがきっかけで、卒業後宮崎県社会福祉事業団に19年2か月勤務しました。県内の福祉施設を経験していく中で、施設現場とは違つた在宅での様々な相談に対応できる仕事があったので、ケアマネージャーの仕事を選びました。そして、早や5年になろうとしています。

交替制の施設現場勤務とは異なり、在宅で生活される人生経験も豊富な先輩である利用者・家族の方々と、介護を支援する立場での対話をする事に戸惑いを感じたこともありました。そして、利用者の最期の時まで、お世話できる仕事をさせていただく中で、毎回最期の時は「満足されていたかな?」と自問自答を繰り返します。

お一人、お一人の人生があり、考え方や環境、性格等もちろん異なります。しかし、住み慣れた落ち着いた場所である自宅で、できる限り長く生活して頂ける様に、たくさんの思いやその人らしさを大切に日々仕事に取り組んでいます。誰もが通る道だからこそ、後悔のない穏やかな最期を迎えられる為に、毎日走り回りたいと思っています。

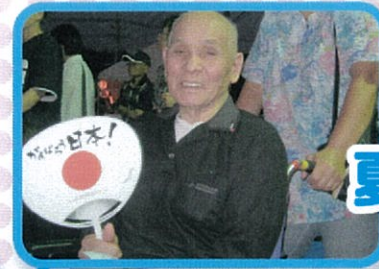
季節の花に
囲まれて



4月8日の花祭り



天ヶ城公園にて桜見物



夏祭り



月知梅公園にて

明るく楽しい 園生活

特養裕生園のスナップ写真より



運動会



遠足・外出



広々とした西都原公園。気持ちいいね~!



クリスマス会



よく似合ってますね!



ケアハウス シヤトル

ご挨拶

ケアハウスシヤトル

施設長 小八重 正士

早いもので、私もシヤトルに勤務し二年目を迎えております。これも、職員、利用者および家族の皆様のご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

昨年は、東日本大震災、原子力発電の事故など大変な年でした。今でも、その復興に国全体で取り組まれているところでございますが、今後の早い復興を願うばかりです。

又、今年の冬は大寒波、更には大積雪で、日本海側を中心に積雪による重軽傷者及び死亡者も出るという暗いニュースばかりでした。

平成二十四年度四月一日から介護保険法に基づき介護報酬の改定が行われ、施設として厳しい事業運営の状況になってまいりました。私達福祉サービス事業に携わる者として、社会福祉法人にとっては施設の現状と将来に向けた課題が山積していますが、福祉サービスの基本理念に基づき、利用者の立場に立ち、生きがいと人権尊重を基本理念とする経営が必要となってきます。

又、現在では、個人、民間企業等が参入し、自由競争となり、施設経営も更に厳しくなっております。そのためには、安心と満足度の高いサービスを提供し、心身機能の維持と家族の心身の負担の軽減を図り、職員の質の向上と人材育成に努め、信頼され、評価される健全な経営に努めていかなければなりません。

又、利用者の皆さんの施設内での生活におきましては、食事を美味しく食べる事が、一番の楽しみのひとつでもありますので、管理栄養士と調理員が協力し、利用者一人ひとりに合った食事を考え、提供できるように日夜努力をしております。

又、介護職員におきましても、利用者の皆さんに更に喜んでいただけるよう、処遇面、行水面等を色々と考え工夫し取り組んで参りますので、このシヤトルで利用者とその家族そして職員と、楽しくお過ごしいただきますようお願いいたします。

これからも、私達職員は、利用者の皆様が安全で安心して暮らせる施設づくりに努めて参りますので、これからもご協力をよろしくお願いたします。



ファミリーレストランでの1コマ



気持ちもキリツと書道的时间



赤鬼登場!



お化粧品ではありません! ハツゲームです。



短歌会にて伊藤先生を囲んで!



今日は霧島酒造の見学にきました。

グループホーム たちばな

グループホームたちばな

管理者 長友美紀

利用者の方々をうきうきと心躍らせる春がやってきました。これからの季節、ご家族を誘って散歩や外出を利用者の方々と大いに楽しみたいと思います。

たちばなの「ユニットの職員トイレのドアの内側に「三つの言葉」ありがとう」感謝の気持ち、「すみません」素直に謝る気持ち、「どうぞ」思いやる気持ちと掲示してあります。あたり前の言葉ですが、現代社会では忙しさに紛れ実行されていないようにあります。

この三つの言葉に笑顔を添えることで相手の心を開くことにもなります。又、笑顔になることでリラックスした状態を保つこともできます。利用者の方々の「心のリハビリ」「心のケア」の改善効果にもつながります。日常生活の中で、おなかから笑うことは免疫力を高めると言われています。これからも「心のSOS」に直ぐ気付き、一人ひとりの利用者の日々の生活を尊重し寄り添い、共に喜びを分かち合いながら、ご家族そして地域の人々の協力の下に、全職員で真心のこもった「心に笑顔のケア」を心掛けて行きたいと思えます。



たちばな 3号館

今年百歳を迎えられる方を筆頭に、利用者、職員共に元気いっぱいの3号館です。



たちばな 1号館

思いやりのある優しい方々。わが家のような生活を共に送っています。



たちばなデイサービスセンター

利用者、職員で製作したひまわりをバックにレクリエーション活動の風せんバレーを楽しんでいます。利用者の皆さんとてもお上手です。



たちばな 2号館

1日でも多く笑顔で生きて欲しいと願い家族と共にその人の思いを大切にその人らしく安心して日々を過ごしてもらえる様に心がけている2号館です。

きんかん小規模多機能ホーム



タクティールで日頃の疲れも吹き飛びます。

ココ、実はきんかんの
玄関なんですよ!!
気候のいい日はここで
お茶会をしてマス。



紙ねんどを丸めて色をぬって
顔を描いたらひな人形の完成!!



どらやき作りを皆さんで
行いました。
慣れた手つきであっという間に
出来上がり。



職員手作りの道具で素麺流しを楽しみました!!



春には花風呂を楽しんで頂いております。
気分は外国のリゾーツスパです!!



地区の祭りできんかんにも獅子舞が。
皆さんの頭をかんでもらいました。
きっとご利益がありますよ!



近くの生目神社に初詣でに行きました。皆さん熱心にお祈りされていました。

しんあい詩会

毎月一回、ケアハウスシャトルで行われている短歌会で発表された短歌の中から、いくつかをこ紹介します。作者は、シャトル、裕生園及び信愛園の入居者の方々です。(氏名五十音順)



紫外線陽の強さにも花々は

美を競って咲きみだれけり

中川 泰美

常夏で孫の楓馬はサーファー気取り

ワイキキビーチで真鯛のよう

中川 泰美

大晦日家族みんなでマージャンを

して遊んだのは良き思い出なり

二宮 裕子

年の暮れ笑顔うかべて働くは

シャトルの中の職員達よ

二宮 裕子

外出すればすぐに「トイレは」と聞きし夫

吾も今その歳になりたり

花田 暢子

孫からの手紙着きたり作文の

宿題と聞けど読めば嬉しも

花田 暢子

部屋替えになれば月影明るくて

夜明けと思ひ出て行きたり

福本 栄

散る桜此の様に散れときたわれし

少年時代思えば悲し

福本 栄

初恋の彼は今では天国の

星になりても面影消えず

松本 マサ

生き物の糧を産むのは土なのに

汚染されてはなす術のなし

松本 マサ

早生稲のあとに撒かれたコスモスの

一番咲きは純白の花

森田 琢恵

目覚むれば一面の灰怒りたる

息を吐きおり新燃岳は

森田 琢恵

風いでて渚にじやりとる子等の

ほおかぶり見ゆきつくあごにむすぶ

山下 一郎

夏祭り空をいろどる花火かな

我ひとすじに夜空を見上げる

米澤 義光

満月や空に輝く秋の風

子供ははしゃぐ夜の道ぞや

米澤 義光

「ひこぼえ」第八十五号、第九十五号のなかから「しんあい」編集部が選びました。



松本マサさんの「生き物の糧を産むのは」の歌が平成二十三年度心豊かに歌う全国ふれあい短歌大会で佳作に選ばれました。おめでとうございませう。これを更なる励みにして、松本さんはもちろん、短歌会の他のメンバーの皆さんもますます歌作りに精を出され、施設での生活がより豊かになつていくよう、私達職員もサポートして参ります。

編集後記

ニュースフラッシュのコーナーでお知らせしましたように、この度、ホームページを全面リニューアルし、ブログのページも開設しました。ブログは複数の執筆者が交替で記事を書いて行きます。執筆者は老若男女。どんなものになつていくのか、楽しみでもあり、少し不安でもあります。この機関紙「しんあい」とは違った趣きで、私達信愛会の「今」をウィウィッドにすくいとって行つて欲しいです。いつ見ても新鮮な記事が載っている、そんなブログ、ホームページを目指して努力して参ります。

新ホームページのアドレスは
<http://www.sin-ai-kai.jp>